

## MESSAGE

神の願いは、私たちが生きるこの世の中が、太古に創造されたその場所のように、完全に平和で幸福な世界になることです。神は人類に苦痛を与えたくて、アダムとエバを誕生させたわけではないのです。私はこの驚くべきみ言を世の中に伝えなければなりません。宇宙創造の秘密を解明すると、私の心は海のように穏やかになりました。私はぼろを着て下を向いたまま歩き回りましたが、心はあふれんばかりの神のみ言に満たされ、私の顔からは喜びの光が消えませんでした。『平和を愛する世界人として 文鮮明自叙伝』より抜粋)

### 訓読家庭書写集会

神のみ言が心の糧に

#### 「自叙伝」書写で深まる「愛天愛人愛国」の生活



『平和を愛する世界人として』文鮮明自叙伝  
創芸社刊 2009年10月2日第1刷発行  
著者：文鮮明  
訳者：文鮮明師自叙伝日本語版出版委員会  
●四六判・上製・350頁(定価：1,800円+税)  
●文庫判 (定価：760円+税)

それら、それらの根底にある神の愛と心情を表したみ言がふんだんに紹介されています。

日頃の生活の中で心が疲れていたとしても、神のみ

「真なる愛は、与え、また与えても、なお与えたい心です。真なる愛は、愛を与えたということさえも忘れ、さらにまた与える愛です」——。(「自叙伝」より)

世界基督教統一神霊協会(統一教会)創始者の文鮮明先生の歩みを一言で言えば、それは神のみ言(メッセージ)と真の愛の心情を伝えるための生涯でした。『平和を愛する世界人として 文鮮明自叙伝』には、文先生の人柄や思想、業績の紹介にとどま

りに触れ、真の愛を感じ取ることで心が落ち着き、さらに本心が復興していくようになります。神が共にあることを感じるようになり、心が成長していくのです。人間にとって神のみ言は正に心の糧なのです。

そのみ言を訓読し、書き写しながら、その内容をかみしめ、より深く理解するための「心の書写」が、全国的に、教会や家庭において行われています。北千葉教区船橋教会では、「愛天愛人愛国の精神と生活」を柱としながら、家庭書写会を盛んに行っています。書写を通して、毎日、み言に触れる習慣ができます。

毎週日曜日の礼拝においても、30分前に礼拝堂に来て書写を行い、心情を整えて礼拝に備えます。大人だけでなく、小学生から青年に至るまで子供たちも書写を行います。

そのようにして全体で一つになって書写を行うことで、礼拝を受けるための心の姿勢が整ってくるので、礼拝でもさらに心霊が復興するようになります。



自叙伝書写の実践のようす



### 真の愛を相続する道「訓読」

世界基督教統一神霊協会 伝道教育局長

阿部美樹

人間は「言葉」を語ったり、聞いたり、書いたり、読んだりして生活しています。どのような言葉を使うかによって人生の幸、不幸が決定します。しかし、善なる言葉と悪なる言葉の正しい判断基準が分からず苦しんでいるのが現状です。

文鮮明先生は、幸せに導く天の真理を明確に「み言」として教えてくださいました。そのみ言には、真の愛で人の心を善化する力があり、家庭を愛の調和に導く力があり、世界を平和に導く力があります。そのみ言を、目で見て、口で声に出し、耳で聞くことを「訓読」といいます。訓読こ

そ、み言に込められた真の愛を相続する道であり、人格と家庭と世界を真の愛で生み変えていく道です。

文鮮明先生は、訓読の恩恵を次のように語られています。「これは霊的な糧です。肉的な糧を慕い、おいしく食べて、初めて成長できるのと同じように、霊的な糧をおいしく食べてこそ成長します」「訓読会をすれば天地が共鳴します。常に天と共にいることができる立場に立つのです」。

また、訓読だけではなく、筆を握って、紙にみ言を書き写す「心の書写」を取り入れることもあります。